

- 五省訓**
- 1.至誠に倅るなかりしか。
 - 1.言行に恥ずるなかりしか。
 - 1.氣力に欠くるなかりしか。
 - 1.努力に憾みなかりしか。
 - 1.不精に亘るなかりしか。

五省会ニュース

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41-2481(代)
発行人 西能 正一郎

完全参加と平等、をテーマに、ことしは国際障害者年。障害を持つ人が、もろもろの社会活動に参加し、一般の人たちと同じ生活を送り、社会経済の発展による利益の平等な配分を受けることを目的としたもの。このため、富山県障害福祉課は、昨年九月、「国際障害者年推進本部」の立て看板をかかげて準備を進めているが、施策が予算化するのは、二月ごろになる。市丸岡課長は「二つの重点目標がある。第一点は県民の理解と協力を得る啓発活動が大切だ。第二点は、五つの分野で福祉施策を進め、目的の達成につとめたい」と語っている。以下は、その構想である。

'81 国際障害者年



国際障害者年のポスター、中央がシンボルマーク

完全な社会参加を

啓発活動では、障害者を特別視しない心がふれあう地域社会の実現を目指す。それは、ハンディキャップという垣根を取り除き、「みんな一緒だ」の環境づくりにつとめるものだ。一般的には、障害者看板などの街頭宣伝もとり

啓発活動では、障害者を特別視しない心がふれあう地域社会の実現を目指す。それは、ハンディキャップという垣根を取り除き、「みんな一緒だ」の環境づくりにつとめるものだ。一般的には、障害者看板などの街頭宣伝もとり

愛の手でふれあう町づくり

富山県推進本部

事項にあげている。

五つの福祉施策の①は生活を保つため、年金と助の充実。環境面では公共交通や道路の増設で、町や村を住みやすくする。

②収容施設を整備し、その充実をはかる。とくに重度を考慮する。

③障害の発生予防、早期発見およびリハビリテーションのための効果的な施策を推進する。

垣根を取り除く リハビリの施策も強力に

④就労の促進につとめる。ハンディを克服して働くことがなよりの生き甲斐であり社会参加である。企業にも協力を求める。

⑤教育の充実をはかる。とくに、障害者養護教育の義務化(富山県は五十四年から実施)の充実をはかる。同課では、「最近障害者の人が積極的に社会に活動することが多くなった。富山県でも、そんな、ほほえましい風景が前よりもみられるようになった。もつとひろげたい」と語っている。

生活環境の改善に

高岡市は、昨年四月二十日、厚生省から障害者福祉都市推進事業の指定をうけ、六月一日、県指定をうけた。これは県下ではじめて。障害者の生活環境の改善、福祉サービスの実施、心身障害児の早期療育の推進および市民啓蒙の各事業を総合的に実施して効果をあげており、さらに「福祉の心」を育て、障害者の住みよい町づくりを目指している。

また、八月に高岡市障害者福祉都市推進協議会が設置され、円滑化のため活動している。

あすなろ

▼三年前、医師の井村和清さんは右足を切断した。ひざの悪性腫瘍のためだ。勤務先の大阪の病院に復帰するため義足の歩行訓練が始まった。

「第一に決して後を振り返らないこと。自分に今できることは何かを考えて、あすに向かつて歩き続けることだ」▼つぎに、自分の体に生じた傷害を受け入れて、それを他の健全な部分で補っていくこと。右手、右足が不自由なら左手、左足で。当時の井村さんのすさまじい闘志を思い出す。しかし天は彼を無情にも見離した。治つたと思つたひざの病巣はすでに肺を侵していたのだ。復帰して半年目。彼は再び妻とともにも郷里の砺波市に帰つてきた。死期を知っていた彼は黙々と死の直前まで遺書を書き続けた▼井村さんが死んだのは五十四年一月である。三十一歳。遺書は「ありがと、みなさん」として世に出た。そのなかで「死にたくない」無念の思いを綴つた一文がある。理想的なりハビリ専門病院を北陸に建てたかったのだ。健康な人が設計し、健康な人が建てた病院は必ずどこか欠けている。というものが彼の持論だった。彼の夢は破れた。81年「国際障害者年」を迎えて井村さんの心が切なく身にしみる。

車椅子のみなさん

西能 正一郎

「五省会ニュース」第一号を発売しましたところ、思いがけない沢山のみなさんから、激励のお手紙や、お言葉を賜りました。ほんとうにありがたいことと感謝しております。それと同時に、第一号や第二号までならだれにでも出来る、これからは本番だと、心を引き締めたいと思います。よろしくご援助賜りますようお願い申し上げます。

生きていく「しるし」を

私はご縁があつて、「車椅子友の会」富山支部の皆さんとお付き合いする機会が持てるようになりました。脊髄損傷といふ病気がもつたにない病気がありますが、ひとたび起りますと大変なことです。病気のものの治療はもちろ

その人の社会が百八十度変つてしまします。それに対応する患者さん自身の頭の切りかえがより一層大変なこととなります。

生きていく「しるし」を

私は、身障者なら身障者なりに自分の生命と心を大切に生きていく「しるし」を身をもつて確かめてゆくこと。自分のために、そして愛する日本のために自分はこの身体で何が出来るかを問ひます。これこそ、その人の生き甲斐を作り、福祉を考える原点であると思

者年のスタートであることを願ってやみませ

新年明けましておめでとうございます

医療法人 財団五省会

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 理事 西能 正一郎 | 常務理事 林 敏彦 | 理事 住 栄作 | 理事 米田 寿吉 | 理事 岸口 繁 | 理事 西能 綾子 | 理事 石川 実 | 監事 菅田 英二 | 監事 稲垣 忠一 | 評議員 重松 為治 | 評議員 神沢 幹夫 | 評議員 西能 孜 | 評議員 西能 竝 | 評議員 坂本 重一 | 評議員 辻 陽雄 | 評議員 土田 亮一 | 評議員 古沢 富美 | 評議員 堀 政夫 | 評議員 松井元太郎 | 評議員 矢野 三郎 |
|-----------|-----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
- 医療法人財団五省会
西能病院 職員一同

大地を踏む

②

婦中町広田、藤塚謙介さん(五一)が脳出血で倒れたのは昭和五十一年十二月十二日の朝だった。顔を洗ってから坐ろうと思ったところまで覚えがあるとい

う。救急車で富山市民病院へ、をまげたり、手をあげたり、すく手術だ。そのあと、翌五十二年の四月末まで、意識不明の寝たまま。無意識のうちに食べていたこと



「ラン作りが楽しみだ」という藤塚さん 婦中町の自宅裏で

になる。

五十二年六月三日、付き添いの車椅子で西能病院に入院した。病名は左片麻痺。不自由な手足のマット訓練がはじまった。

そして、同年八月末に、一本杖で一人歩きできるようになった。そのあとも、いろいろなハビリの訓練がつづいた。

五十二年四月二十八日に退院した。杖のいらぬ一本立ちだ。それから二年八カ月、農業の手伝いをするかたわら、趣味のそせい園、ランやオモトづくりや盆栽に余念がない。

3千メートル歩行に自信 しゃばの風、に気分爽快

「調子がいい。つい、足が伸びて県営球場までできてしまった。」「それこそ、しゃばへでたような気分だった」と、述懐する藤塚さん。

五十二年四月二十八日に退院した。杖のいらぬ一本立ちだ。それから二年八カ月、農業の手伝いをするかたわら、趣味のそせい園、ランやオモトづくりや盆栽に余念がない。



美しいものが見えてきた

(第二信)

☆ 下 英 勝 ☆
☆ 松 下 英 勝 ☆

本紙の創刊号に、「美しいものが見えてきた」を寄稿された岡山県津山市瓜生原362の1、社会福祉法人、重度身障者施設、みずび荘13号室、松下英勝さんから西能病院に、つぎのような「創刊号を拝見して」の人情味あふれた手紙がとどいたので第二信として掲載します。

岡山まで聞えてくる みなさんの頑張りが...

「あすなろ」の木崎恵美子さん、私の退院時にも西能院長が、「何かを書けるように」と、そんな言葉を贈ってくださいましたのを憶えております。

今自分は、五省訓を忠実に実行し、こんごとも肉体的にはどうあれ、精神的には決して恥じることなく一層強く生きて行きます。どうも、ありがとうございます。皆さま、くれぐれも体を大切に、一人でも多くの患者さんを救ってあげてください。

わたしの健康法

堀 政 夫

生者必滅、会者定離は人の世の逃れがたい宿命であり、いつ健康に破たんをきたすかわからない故に、明日の責任はもてない。近年、健康食品や健康器具として健康増進のためのスポーツなどがブームになっているが、それも万人共通の健康法とはいわれない。



津液を飲んで臓器を養う

津液を飲んで臓器を養う。酒は冷やして、割でよし、刺でよし。刺は冷やしてよしである。カラ酒、冷酒は、友からしばしば忠告されるが、なかなか直らない。

- ① 昨日の非は後悔すべからず
② 明日の是非は慮念すべからず
③ 飲と食とは過度すべからず
④ 止物に非ざれば苟も食うべからず
⑤ 事無きとき薬服すべからず
⑥ 社夫を頼みて房を過すべからず
⑦ 動作を勤(つと)めて安を好むべからず



神通川原には写真のようなカモメのほかコサギ、ゴイサギ、ウミネコ、カイツブリ、カモ、キジなど多数の鳥が集まり、四季を通して野鳥の楽園となる=有沢橋下流で=

季節をめぐる

寒さも、今がさかり。この寒さの中、まもなく立春をむかえようとしている。二十四節気では2月4日が立春、そして春のさかり5月4日は立夏、うだるような暑さのさなから8月6日が立秋、平野部に紅葉の降りてくる11月6日には、立冬となる。

雪原の樹ハダに春のぬくもり

幼い日の郷愁にかられ

また冷夏の後におだやかな秋が訪れた。一番の、一番のスズメをよく見かけた。幸い産卵には至らなかったようだが。天気の良い日には呉羽山や神通川原を散策するのもいいものだ。呉羽丘陵の城山には一等三角点があり、晴れた日には泊から能登半島まで、文字通り富山県全体が見渡せる。(西能病院病室 三ツ松節男)